



創立153周年

10月号（令和8年9月30日発行）

kurosho-dayori

鉄小だより



鉄小学校ホームページはこちら→

自然と生きる ^{くろがね}鉄の秋、収穫に感謝

校長 玉置 恭美

昨年の10月号学校だよりに、『「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが。』と記しました。昨年は9月の最終週になるまで、日々エアコンでの冷房が必要でしたが、今年の秋は時折、「ちょっと寒い」と感じる日があり、「台風と長雨」に見舞われる日々となりました。鉄小学校の伝統行事、「全校稲刈り」ですが、台風の風雨を受けた稲の状態、また稲刈り当日の天気心配されました。でも、稲架立て（はさたて）、稲刈り当日の2日間は、秋晴れとなりました。太陽光に照らされた鉄小稲の穂は黄金に輝いていました。「稲は強い」という地域の方のお話を改めて思い出しました。田んぼいっぱいの稲を、時間内に児童の力で刈り取ることができないのではないかと心配されましたが、全校児童、特に6年生の頑張りで、無事に刈りきることができました。ご指導いただいた地域の方々、保護者の皆様、稲刈りでのご支援をありがとうございました。

9月に入ってすぐ、3年生が自分で袋をかけ、とても大きく成長した梨の収穫を行い、全校でも給食で「はまなし」を喫食しました。今年の梨はとても大きく、瑞々しくておいしかったです。はまなしの特集を組んだテレビのニュースでも、鉄小での「はまなし」喫食風景が報道されました。天候、特に雨の量により、農作物の収穫量、質に大きな変化があります。雨が多かったことが、お米の収穫量、味にどのような影響をもたらすのか。年々進む地球温暖化、その恐怖を感じるような氷河の崩落、壊滅的な土石流のために、ネパールと中国・チベット国境付近で1300人以上が死亡し多くの行方不明者を出しました。日本国内でも台風、大雨の影響で、路面が冠水したり、土砂崩れが起きたりして、人命や生活に影響がでています。自然と共に生きる日々の生活で、何を備え、どのような訓練が必要かを改めて考えることが必要だと感じます。

